



鶴見区民会議は、誰でも自由に参加できる話し合いの場です。話し合いから、うるおいがあり、心安らぎ、また活力のある地域社会づくりのアイデアが生まれます。

編集発行 鶴見区民会議運営委員会
承認 鶴見区第2号

鶴見区の 未来に贈ろう 良い環境

平成27年11月20日(金)鶴見公会堂で、鶴見区民会議を開催し、「鶴見区の 未来に贈ろう 良い環境」をテーマに、地域のごみ・資源に関して地域でできることを、参加者の皆さんと考え、話し合いました。

★講演会「未来に向け、もう一度考えよう！～3R夢(スリム)な暮らし・まちの美化～」講師：石井 正人 所長

資源循環局鶴見事務所の石井所長に講演していただきました。
講演の途中で、参加者に向けて3択クイズが出題されるなど、和やかな講演会になりました。

横浜市は国から、「環境未来都市」に選定されています。
ごみと資源の排出量を減らせば、よい環境づくりにもつながります。
「地域温暖化、CO₂を減らすことを意識した3R行動」「もったいない」を意識し、ごみの分別、リサイクル、まちづくりを楽しむ」「体・技・心、無理なく継続する」など、一人ひとりの心掛けが大きな力になります。引き続き、各家庭や地域でのご協力をお願いします。

※3R…リデュース・リユース・リサイクルのこと



★第1分科会「最大の 資源化^{こうば}工場は 各家庭」【減量化、資源化推進】



＜こんな意見がありました＞

- ◇生ごみ減量のために、水分を減らす工夫をしている
- ◇手つかず食品をごみにしないよう、冷蔵庫を点検している
- ◇マイバッグが一般的になったが、レジ袋利用者も多い

まず始めに、横浜市の取組として“3R夢”“冷蔵庫10・30運動”など資料を配布し説明がされました。その後、参加された皆様に、ごみの減量化・資源化の工夫をご紹介いただきました。

生ごみの減量化のための工夫として①ネットに入れて水分を絞る、②新聞等に水分を吸わせて蒸発させる、③天日干しで乾燥させる、④乾燥しているものと濡れているもので分別する、⑤土壌混合法で生ごみを公園の土に変える(市場地区の公園)、など多くの事例紹介がありました。

次に、手つかず食品の廃棄(食品ロス)の防止について話し合われました。「一人ひとりの強い意識が必要。『冷蔵庫10・30運動』で冷蔵庫点検をするのは動機付けに良い」との意見がありました。

困った事例として、「リサイクルは浸透しているが、資源ごみが燃やすごみとして捨てられていることがある」との報告もありました。対策として「分別が徹底していない集積所は、環境推進員が中心となり、張り紙や個別に説得してはどうか」とのアイデアも出ました。また、「アルミ缶の持ち去りが多いので、取締りが必要ではないか」との意見に対して、石井所長より「資源循環局としても事態を把握し、指導をしているが、徹底には至っていない」との回答がありました。

参加者は、家庭や地域で積極的に取り組まれている方が多く、すぐに実践できる取組を共有できました。

※冷蔵庫10・30運動…毎月10日、30日に冷蔵庫の中身をチェックして、食品ロスを防止する運動

★第2分科会「我々の 意識とマナーが 再資源」【ごみ出しマナー啓発】

＜こんな意見がありました＞

- ◇マナー意識を高めるために分別表を作成している
- ◇資源ごみで得たお金が、集積所の道具や町内会の活動費として有効活用されている



最初にごみ出しマナーで困った事例紹介がありました。「夜間に車で多量のごみ袋を持ち込んで捨てられる」「集積所に放置され、迷惑している」「分別されていないごみが捨てられる」「カラスにごみを荒らされ、ネズミが繁殖し、衛生面で困っている」「空き家のごみ捨て場となり、火災が発生したこともあり、危機感がある」などの紹介がありました。

マナー意識を高めるために、「組立て式のごみ箱を使用して集積所の整理整頓をしている」「引っ越してきた方には資源循環局の分別パンフレットを渡し、外国人の方には外国語版の分別パンフレットを渡して、理解と協力を得ている」「分別が難しいものは表を作って集積所へ掲示したり、各家庭へ配布したりしている」などの紹介がありました。

資源ごみについては、「回収で得たお金は、集積所のごみネットやボックスの購入、町会行事の活動に役立っている」などの報告がありました。

ごみ屋敷については、「問題解決までには長時間かかるため、ごみを撤去できる適切な条例を検討して欲しい」「家主の心の問題として福祉の面からケアすることで、解決できるのではないか」との意見もありました。

意識とマナーを根付かせるには、繰り返しPRすることが重要です。きれいにするという意識を持つことがマナー向上につながります。

★第3分科会「地域で取り組む 美化活動」【街の美化】



＜こんな意見がありました＞

- ◇清掃活動が防犯にも役立っている
- ◇地域、個人、学校、企業などで清掃活動が行われている

司会者から、地域や企業などの清掃活動の紹介があり、参加者からも多くの紹介がありました。

地域での活動例として、「駒岡地区連合では鶴見川河川、大曲公園の花壇を定期的に手入れしている」「古紙回収日に集積所の清掃活動を実施している町会がある」「クリーンキャンペーンを中心に美化活動を行っている町会があり、それが防犯にも役立っている」などの紹介がありました。

また、個人での活動例として、「東寺尾5丁目公園は以前ホームレスが集まり困っていたが、ある方が説得して立ち退きを促し、毎日清掃しきれいな状態を維持している」「ラジオ体操の帰りに公園の清掃活動を実施している方がいる」などの紹介がありました。

さらに、学校及び企業の活動例として、「ある中学校では生徒が学校周辺を清掃してくれるので、ありがたい」「ナイス株式会社及び松尾工務店の社員の清掃により、周辺がきれいである」などの紹介がありました。

困っている事例としては、「ごみ屋敷の対応に苦慮している」「外国人のごみの分別が進まずに困っているため、管理会社にも指導を徹底してほしい」「道路へのタバコのポイ捨てに困っている。この問題が解決できればすいぶんきれいになると思う」などのお話がありました、その対策として、「手作りのポスターで注意喚起したらポイ捨てが減った」との報告もありました。

地域だけ、行政だけでの美化活動には限界があります。地域と行政が手を取り合って美化活動に取り組むためにも、地域と行政との信頼関係が大切だと思います。

★全体会 「講評」 石井 正人 所長

分科会の発表を受けて、参加者の皆さんからのご意見が全体的に前向きだったので、心強く思いました。

まず、実践例にありました「冷蔵庫内のチェック」はとても効果があると思います。次に、プラスチック製品のリサイクルについては、業者の費用負担の問題や法的な問題があるため、整理が難しい状況です。しかし、プラスチックを燃やすと大量にCO₂が排出され、地球温暖化につながるため、分別することが大事です。さらに、ごみ屋敷の解決には、行政の福祉的な支援だけでなく、地域の目とマナーが重要です。

公園清掃が防犯に役立っているなど、地域活動の重要性を感じた発表でした。外国人へ向けての取組例としては、国際交流ラウンジなどによるごみ出しマナーの啓発があげられます。

3R夢な暮らしやまちの美化には「体・技・心」の順番が大切だと思います。「体」、まず健康管理が第一です。次に、培ってきた「技」を使い、思いやりの「心」を持つことで、鶴見区の美化へとつながっていきます。引き続き、様々な地域活動に積極的に取り組んでいただきたいと思います。